

## 広報推進協議会 第3回会合

### 1. 日 時

平成28年2月24日（水） 15時00分～17時00分

### 2. 場 所

国土交通省国土地理院 関東地方測量部 小会議室(九段第2合同庁舎8階)

### 3. 議 事

- (1) 前回会合の振り返り(15:10～15:20 10分)
- (2) 米国における測量に関する広報について(15:20～15:35 15分)
- (3) 広報に関する当面の課題(15:35～16:00 25分)
- (4) フリーディスカッション(16:00～16:50 50分)
- (5) 次回日程について

---

資料1-1 広報推進協議会第2回会合議論の要旨

資料1-2 学校サポートセンター(NPO法人)仲介による地方測量部への職場訪問例

資料1-3 国土地理院広報リーディングプロジェクト「学校に行こう」取組例

資料2 米国における測量に関する広報について

資料3 広報推進協議会平成28年度活動方針(たたき台)

## 広報推進協議会 第2回会合(議論の要旨)

日時：平成28年1月22日(金) 10:30～12:00

場所：国土地理院 関東地方測量部 大会議室

出席者(構成員：13名)

全測連 宮崎事務局長  
測専教 市川事務局長、土田学科長(中央工学校)  
地調協 稲垣業務執行理事  
日測協 岩田総務部長、川口測量技術センター参事役兼管理部長  
測技協 首藤検定推進センター長  
JMC 田代常務理事、松本総務部長  
地理院 村上参事官、松村基本図情報更新技術分析官

(アドバイザー)

金沢工業大学 鹿田教授

(オブザーバー)

国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課 水草企画専門官

### 1. 修学旅行時の職場体験

- (1) 修学旅行時の職場体験受け入れ事例と仲介団体の紹介がされた。
- (2) 広報推進協議会として各団体を通じ、受け入れ可能な会社・場所を集約して仲介団体(NPO法人、民間会社)に声をかけることが考えられた。集約の可能性について構成員の所属団体で検討することとした。
- (3) 仲介団体について、紹介された者以外についても調べることが示唆された。

### 2. 建設関連業イメージアップ推進協議会の取組

- (1) 同協議会による説明会の事例報告がされた。
- (2) 同協議会は、国(国交省)主導から関連団体主導に方向転換中であると説明があった。
- (3) 現在、説明会参加者のアンケートと説明会の実施に関するノウハウ集を取りまとめしており、後日、共有ができる見込み。

### 3. 広報活動のターゲットについて

- (1) 就学、就業を考える高校生～大学生(リクルート層)は重要なターゲットと認識された。
- (2) 一方、就学、就業の意思決定は保護者も大きく関わっており、ターゲットと認識されるが、取組のノウハウが今は少ないので長期的に取り組みが必要と考えられた。
- (3) また、国民全般に向けた広報も重要と指摘された。マスコミを効果的に活用することが大事。
- (4) ターゲットとしては、国民全般とリクルート層の2つが重要と見出されたが優先度や方法論はまだ詰める必要がある。

## 新潟県糸魚川市立大和川小学校 6 年生の 訪問学習を受け入れました

関東地方測量部では、糸魚川市立大和川小学校の 6 年生 9 名の訪問学習を受け入れました。訪問学習は、修学旅行の機会を活用して公共機関、行政機関等を訪問し、組織の仕組み、仕事の工夫、社会的役割などについて学習することを目的に実施されています。

当日は、国土地理院の概要と社会的役割などの説明を行ったあと、TS と電子レベルによる測量体験、立体鏡を使った学校付近の立体視、3D 模型（新潟焼山付近）や鳥瞰図による学校周辺の地形について体験してもらいました。

大和川小学校は日本初の世界ジオパークである糸魚川ジオパーク内にあり、児童からは、普段から学習に取り組んでいる親不知子不知、新潟焼山などのジオサイトの紹介がありました。

また、「できたばかりの北陸新幹線が地図に載っていることが分かった」「測量機械に初めて触った」などの感想が寄せられました。

今回の体験が、参加した児童の将来の参考になれば幸いです。



地理院地図を使って楽しみながら学ぶ



新潟焼山の 3D 模型や学校付近の鳥瞰図に興味津々



立体視で郷土の今昔と地形を確認



どこから見ても自分の顔が映るミラーに興味

この取り組みは、特定非営利活動法人学校サポートセンターが活動を支援しているものである。今回は、サポートセンターから事前に対応の可否について確認があり、その後、当小学校からの依頼で平成27年6月19日(金)10:00～11:30に対応したものである。

なお、関東地方測量部での対応は、昨年度の中学生に続き2回目である。

## 高校生の「訪問学習」の取り組みについて（報告）

### 1. 概要報告

近畿地方測量部で栃木県立真岡高等学校（以下「高校」という）2年生6名を対象に訪問学習を実施したので概要を報告する。

訪問学習は、大阪での修学旅行の機会を活用して、地元にはない様々な公共機関、行政機関、民間企業等（全体で約30ヶ所）を訪問し、組織の概要や日々の仕事、社会的役割などを学習して、今後の職業選択、就職活動の一つの材料とすることを目的として実施されている。この取り組みは、特定非営利活動法人学校サポートセンター（以下「サポートセンター」という）が活動を支援しているもので、今回は、サポートセンターから事前に対応の可否について確認があり、その後、高校からの依頼で対応したものである。

### 2. 取り組み内容

- (1) 訪問日時：10月7日(水) 14:00～15:30
- (2) 訪問学校：栃木県立真岡高等学校  
(2年生6名)
- (3) 会場：大阪合同庁舎第4号館2階 特別会議室
- (4) 訪問先等：民間企業を中心に希望別に約30ヶ所。  
行政機関では、近畿地方測量部、近畿地方整備局、公正取引委員会ほか。

#### (5) 訪問学習に際して高校から事前要望

①国土地理院及び近畿地方測量部の組織概要と仕事の社会的役割

②主な施策の概要と具体的な仕事内容の説明

③測量の最新技術とその活用

④生徒からの事前質問への回答

#### (5) 訪問学習内容（講義及び実習）

①はじめに（5′ 自己紹介）

名前、学校の部活動、国土地理院を訪問先に選んだ理由

②国土地理院の業務について（15′ 部長）

③地図と測量のお話し（30′ 測量課長）

GNSS 測量機、TS 測量機の実習及び記念撮影

（測量第一係長）

④質問に答えて（10′ 災害対応（防災情報管理官）、

5′ 質問に答える（次長）



写真1：講義風景



写真2：TS（トータルステーション）実習

災害対応、仕事への取り組み方の事前質問に答えた。

⑤ 事務室見学と図化体験 (20' 技術専門員)

⑥ 基準点見学 (水準点) (次長、測量第一係長)

### 3. まとめ

今回で2回目の取り組みとなった「高校生の訪問学習」では、参加した6名が国土地理院の訪問を希望し「国土地理院の仕事がどれだけ大切な仕事なのか、どのような仕事があるのか、仕事をするうえで大切なことは何かを学びたい。地形などが変化しつつある中、どのようにして新しい地図の作成にあたっては学ばたい」等の理由で期待と関心が高かった。また、事前質問では「東日本大震災による列島のずれなどの測量はどうするのか、領土問題のある場所での地図作成はどうしているのか、人間が行くことが困難な場所はどのようにして測量するのか」など、具体的な質問が多くあったこともあり、今後の職業選択と就職活動に活かしてもらえそうな取り組み内容で対応した。

訪問学習後に届いた感想文では、「2枚の写真のずれを利用して、特殊なめがねをかけることで写真を立体的に見えるようにする技術で、建物を1つ1つなぞって地図を作ることを初めて知った」また、「測量機を使って角度と距離を測量したことが貴重な体験になった」さらに、「震災後の列島のずれの測量には多くの時間と根気がいるということを感じ、働くことの大変さ、やりがい、達成感や喜びを学ぶことができた」との感想も寄せられた。

また、測量業界でも若手技術者不足が言われており、今後の測量業界の担い手確保のため、高校生を対象とする訪問学習や出前講座等を活用した普及啓発活動が重要となっている。近畿地測としても、今回の経験を活かし、測量や地図に興味を持ってもらうため今後も高校生を対象とする訪問学習などの普及啓発に積極的に取り組みたいと考えている。

参考：特定非営利活動法人 学校サポートセンター

<http://npossc.net/>

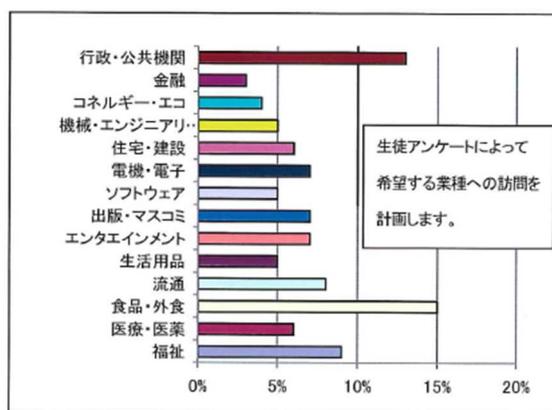
概要：

- ・ 2006年に東京都から特定非営利活動法人認証
- ・ 拠点は、東京都武蔵村山市
- ・ 支援スタッフコーディネーター、サポートスタッフ、出張授業講師 計15名
- ・ 一昨年の実績は、企業訪問学習サポート学校数58校、生徒数4019名
- ・ 企業学習訪問を実践する生徒を受け入れ企業等に2013年は、延べ120社を訪問
- ・ 2014年1月現在協力社数1045社（関西含む）

※このNPOでは、企業・施設が少ない地域の学校生徒の大都市での学習活動を支援することを目的に、今回のような訪問先へのお願い等の事前準備を支援している。



写真3：図化体験



図：中・高校生の企業別訪問学習先の業種・ジャンル別比較（パンフレット参照）

今回のような訪問先へのお願い等の事前準備を支援している。

# 国土地理院は、**広報戦略**に基づき **リーディング・プロジェクト** をスタートしました

**時間** 「G(技術)・K(広報)・K(教育)」プロジェクト  
: 広報・教育両面から将来の技術者づくり

## 大学 インターンシップの開催

- ① ・学(測量・地図関連分野の学会)・産(測量関係団体)・官の連携  
・地図と測量の科学館(つくば)で学生を対象としたサマースクール

## 小中高 基準点

### 電子基準点を設置している学校への出前授業

- ② ・全国1,300の電子基準点のうち600が学校内 ⇒ “学校へ行こう”  
・児童生徒・教師に、電子基準点の役割や測量の大切さ等を伝える

## 施設 地図と測量の科学館(つくば)の積極活用

- ③ ・地図・測量の役割を楽しみながら体験できる場としての充実  
・地理・防災教育の場として利活用

## 組織 地元と連携した広報プロジェクト

- ④ ・地方測量部等(全国10組織): 地元自治体、教育機関等との連携  
・つくば: 石岡測地観測局(VLBIアンテナ)を教育の場として活用

**空間** **ストック有効活用プロジェクト**  
: 国土地理院の組織、施設等を積極活用

**人間** **基盤プロジェクト**  
: 職員の能力を高め共通認識のもとで広報

## 意識 アピールポイントをまとめた資料を活用

- ⑤ ・国土地理院の仕事のアピールポイントを5分で説明する工夫  
・幹部等職員全員が同一資料で積極的に対外説明

## 能力 広報パーソンの育成

- ⑥ ・職員のプレゼン能力の向上  
・中級レベル以上のプレゼンター育成

## 国土地理院 【役割】国土を測り、それを活かす: 「測る、描く、守る」

## 経緯

【沿革】1869(明治2年): 民部官(省)→内務省→参謀本部→内務省→建設省→国土交通省

⇒ 146年の伝統と成果を将来へつなぐ ( **時間** )

【体制】つくば + 10組織(北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄)

⇒ 全国各地でストック効果 ( **空間** )

## 広報戦略

・国土地理院の役割に理解を得る広報を目指し、平成27年11月24日に策定

⇒ 職員一人ひとりが広報パーソン ( **人間** )

## リーディング・プロジェクト

・広報のシンボルとして広報戦略に定めたプロジェクト: **時間** **空間** **人間** ①~⑥

## 北海道地方測量部のトピックス

### 電子基準点を設置している星置中学校において出前授業を実施（平成28年2月12日）

国土地理院では、広報に関する取り組みを強化する目的から、「国土地理院広報戦略」を策定し、院を挙げて計画的かつ効果的な広報活動を展開することとしています。この広報戦略の取り組みとして、3つの戦略と6つのリーディングプロジェクトを掲げ、リーディングプロジェクトのひとつに「電子基準点を設置している学校への出前授業（通称『学校へ行こう』）」があります。北海道地方測量部では、電子基準点「札幌2(020882)」を設置している札幌市立星置中学校の2年生5クラス169人を対象に、平成28年2月12日に前出授業を実施しました。

今回の出前授業は、5名の講師が各クラスを担当することとし、授業内容は5、6時限目を使用して、5時限目は、「国土地理院業務紹介ビデオ」を視聴していただき、その後「電子基準点の紹介」、「地図クイズ」へのグループチャレンジとしました。6時限目は、講師をローテーションして、「地図作りの工程と地理院地図の紹介」、「地図クイズの正解と解説」としました。

電子基準点の紹介では、東北地方太平洋沖地震の地殻変動を捉えたベクトル図やリアルタイムデータを解析した変動の様子などの動画を用いた内容とした結果、生徒達が驚く様子が見られました。地図クイズは、石狩川流域の地形形成やアイヌ語がどのような地形を表しているのかといった出題、領土領海について、さらに近隣国との位置関係などについて理解を深める内容の出題としました。地図作りの工程と地理院地図の紹介では、途中で学校周辺の空中写真の実体視体験を入れて、その後、地理院地図の機能や閲覧できるコンテンツの紹介、さらに学校周辺の変遷が分かる各年代の旧版地形図や防災関係の地図を紹介しました。

なお、各クラスに1つ学校周辺の3D模型地図、全生徒に北海道の陰影段彩余色立体図（赤青メガネ付き）などを配付しましたが、生徒達が興味深く見入る様子が見られました。

最後に出前授業の感想を生徒に聞いたところ、「これまで学校敷地内にある電子基準点には気づけなかったが、大切なものだとなった。」「国土地理院の仕事が理解できた。」との感想が聞かれました。

今回の出前授業により、生徒達に国土地理院の担うべき役割や測量・地図の重要性を理解いただき、国土地理院や関連業界への就業につながれば幸いです。



出前講座の様子



空中写真の実体視へ挑戦



地図クイズの正解と解説



お土産の星置中周辺の3D模型地図



へー 青赤メガネで立体的に

## 地元と連携した広報プロジェクト

東北地測による多賀城高校への特別授業風景  
H28.2.19実施 《東北放送》

### 多賀城高校で電子地図使い防災授業

2016年02月19日 19:07

2016年4月に、県内初の「災害科学科」が開設される多賀城高校で、国土地理院の職員が電子地図を活用した防災の授業が行いました。

特別授業では、国土地理院の職員が2年生34人を前に、電子地図を使ったハザードマップの作成などについて説明しました。この電子地図では、各地の地形のデータや被災地の震災前後の写真などが管理されています。専用のシートに避難所などの住所を入力すると、地図上にマークが表示されるシステムもあり、生徒たちは、多賀城市内の避難所マップを作成しました。多賀城高校は、2016年4月に県内初の「災害科学科」を開設し、防災教育に力を入れていくことにしています。

<http://skip.tbc->

[sendai.co.jp/01news\\_2/20160219\\_25446.htm](http://sendai.co.jp/01news_2/20160219_25446.htm)

《東北放送》

### 多賀城高校「防災」の観点から地図の活用法学ぶ

2016年02月19日

2016年度から、宮城県内で初めて災害科学科が新設される多賀城高校の生徒たちが、「防災」の観点からの地図の活用法を、国土地理院の職員から学んだ。この特別授業は、国土地理院が作成した地図を利用して、防災における地図の有効利用を学んでもらおうと開かれたもので、19日は、多賀城高校2年の生徒34人が参加した。授業では、津波の浸水区域や土地の標高、それに、およそ120年前からの土地の変化など、データを重ね合わせる特殊な地図を使って、地理情報を正確に認識する方法を学んだ。生徒は「どのくらい被害があったのかっていうのが、昔と今の地図をちょっとずつ動かして見られるのが、これからの防災にも役立つんじゃないかなと思いました」と話した。国土地理院は、4月に新設される災害科学科でも、特別授業を行う予定だという。

<http://ox->

[tv.jp/nc/p/search\\_list.aspx?pg=2&d1=&d2=&kw=&mv](http://tv.jp/nc/p/search_list.aspx?pg=2&d1=&d2=&kw=&mv)

《仙台放送》



## 特別授業

### 桂川小5年生105人、地図を学ぶ 国土地理院職員が解説 福岡

毎日新聞 2016年1月31日 地方版

小学校 > 福岡県 > 教育 >

桂川町立桂川小学校で30日、「地図とわたしたち」をテーマに国土地理院職員が5年生105人に特別授業をした。

地図について知ってもらいたいと国土地理院が、測量の基準となる電子基準点が校内にある同小に授業を持ちかけた。田中和之九州地方測量部次長ら3人が、基準点を使った測量の仕方や測量で分かる地殻変動、地図の作り方などを解説した。

田中次長らは、電子基準点が1秒ごとに人工衛星からの電波を受信し、茨城県つくば市の国土地理院にデータを送っており、県内では16カ所に設置されていることを説明。地図に商店を表示し、2点間の距離を測定できることなどを国土地理院のホームページで実演して見せた。

古道真麻（こどうまあさ）さんは「大変な作業で地図を作っているのだと思った」▽倉光陽向汰（ひなた）君は「とても勉強になった。ネット上の地図に自分の家載せてみたい」▽原田楓麻（ふうま）君は「国土地理院がどれほど大事が分かった」――と感想を話していた。【武内靖広】

〔筑豊版〕

> ニュースサイト・トップページはこちら



毎日新聞のアカウント

ピックアップ

話題の記事

- 卵子凍結出産 「温かい家庭ほしくて」決断
- 経済観測 日本人と日本食を狙う米国=農業ジャーナリスト・青山浩子
- 世界のヒット商品 パリ★現地に溶け込む老舗の和菓子 虎屋

powered by CXENSE

## あわせて読みたい

無料電話相談 連合福岡が4～6日に開設 / 福岡

連合福岡は4～6日、非正規労働者らが対象の無料電話相談「全国一斉集中労働相談ダイヤル」を開設する。午前10時から午後7時まで、携帯電話からもつながるフリーダイヤル0120・154・052で受け付ける。連合…

わがまち・マイタウン 北九州の文学碑テーマにシンポ 八幡西 / 福岡

北九州文学碑をゆくシンポジウムが八幡西区黒崎の八幡西生涯学習総合センターであった。市内には森鷗外や林芙美子ら約170基の文学碑があり、シンポは、碑を訪ねながら健康づくりも促す目的で企画。今川英子・北九州市…

患者塾 医療の疑問にやさしく答える 医療事故調査制度 / 福岡



powered by CXENSE

## ランキング

- 兵庫・市立中 26歳教諭、生徒の髪に火 授業中に
- 米大統領選 アイオワ、共和はクルーズ氏勝利
- 大阪市長 吉村氏、総領事と積極面談 橋下氏方針を転換
- 卵子凍結出産 「温かい家庭ほしくて」決断

平成 28 年 2 月 24 日  
広報推進協議会資料

米国における測量に関する広報について  
—National Council of Examiners for Engineering and Surveying 等の活動—

国土地理院

1. 米国の測量技術者制度

NCEES(National Council of Examiners for Engineering and Surveying)が試験を実施しライセンスを与えている(測量以外にも土木等各分野のエンジニア資格(Professional Engineer 等)のライセンスも与えている)。測量技術者資格は、大学卒業程度を受験対象とする FE(Fundamental Surveyor)と更に 4 年以上の実務経験者を受験対象とする PE(Professional Surveyor)の 2 段階となっている。

PE の 2015 年受験者は初受験者 259 名(合格率 80%)、再受験者 122 名(合格率 34%)であるが、受験者数は減少傾向にあるらしい。

2. 米国における測量広報活動

(1) フォーラム

NCEES は、2016 年 1 月 22 日に 18 の測量関係の分野(NGS や USGS 等のような政府機関、American Society for Photogrammetry and Remote Sensing のような学会、Surveying and Geomatics Educators Society のような教育関係、International Federation of Surveyors 等のような測量技術者団体)の代表からなるフォーラムを初めて開催(NCEES hosts forum to strengthen future of surveying profession)。

イメージ向上が測量の将来にとって重要との認識(A significant element identified during the forum is improving the image of the profession. Participants believe boosting the profession's image and increasing public awareness will help keep surveying relevant in the future.)。

「業界内のコラボは減少していく測量技術者数を逆転するために極めて重要。汎用性のある一貫したメッセージを作るために協力することはこの問題に対処するためのより効果的なアプローチになるだろう。」と NCEES の CEO ジェリー・カーターは語った。

(2) 国家測量週間(2016 年 3 月 21~26 日)

国家測量週間は測量について知ってもらうために設けられた。毎年恒例の同週間は

小中高の学生に測量を紹介する絶好の機会となっている。

(3) スピーカーキット

NCEES は広報活動のためにスピーカーキットを作成している。

「学生がエンジニアや測量の資格について学ぶ最も良い方法は、既にそれらを取得している人から話を聞くことだ。スピーカーキットを作成した理由である。」

スピーカーキットは <http://ncees.org/licensure/outreach/speakers-kit/download-your-speakers-kit/>

からダウンロードできる（スピーカーキットはパワーポイント（別紙）と説明書等から構成されている）。

※NCEES のスピーカーキットは資格試験の紹介であるが、測量への案内を内容とするスピーカーキットの作成も考えられるのではないか

**PROFESSIONAL SURVEYING**  
A career without boundaries

**NCEES**  
advancing licensure for engineers and surveyors

**Professional surveyor**

- What does this mean?
- What do you know about surveying licensure?

**This presentation will**

- Describe licensure in general
- Tell you how to become a professional surveyor
- Tell you about the exams used for surveying licensure

**Licensure**

- Why do we have it?
- Grants privileges to perform certain activities
  - To drive, hunt, fish, etc.
  - To practice a profession

STONE MON. FND. STONE MON. GRADE MON. 250.0  
AMUROL PRODUCTS, INC.

**Professional licensure**

- Certain professions impact the public's health, safety, and welfare.
- Would you trust an unlicensed
  - Surgeon?
  - Accountant?
  - Attorney?

**Professional licensure**

- Surveyors can impact the public's health, safety, and welfare.
  - Construction
  - Property boundaries
  - Transportation

## 広報推進協議会平成28年度活動方針(たたき台)

## 1. 将来目指すべき姿(目標)

- ①国民一般に測量の意義や役割を正しく理解してもらう。
- ②就学、就職予定者にとって測量が魅力ある仕事として認知され、測量分野への進路選択を促す。
- ③測量技術者自身が、自分の仕事について誇りを持って、家族、友人、地域社会に広報することができるようになる。

## 2. 現状

- ①測量の本当の姿や重要性は、測量技術者や関係者などのごく一部の者にしか理解されていない。
- ②測量の意義や役割について、多くの国民に理解してもらえていない。

## 3. ターゲット

主なターゲットとして2つを想定。

- 1) 近い将来就職を考える高校生、大学生。
- 2) 国民全般

※ターゲットと取組(整理等)は別紙のとおり。

## 4. 平成28年度活動項目(たたき台)

## ①構成団体間の情報の共有

平成28年度の構成団体の広報活動計画を共有し、互いの視点を意識した広報活動連携、相乗りなどの展開を可能なものとする。

## ②測量の共通プレゼン資料の作成

構成団体に共通して用いることができるプレゼン資料を作成し、使用する。

## ③測量分野の広報取組方針の検討

国土を測る意義と役割を伝える懇話会(平成28年度4回開催予定)の議論を受けて、測量分野における広報の方向性と有望取組項目を整理し、平成28年度内に取組方針を作る。

④継続的に会合を開催し、優良事例の紹介、他分野における広報の取組事例の学習、課題の共有と検討など実施する。

## 5. 平成28年度活動スケジュール

H28. 3. 25(金) (「国土を測る」意義と役割を伝える懇話会)  
・14時～16時 場所 九段合同庁舎 8F

## H28. 4 広報推進協議会

- ・平成28年度活動方針の決定
- ・平成28年度各構成団体の広報取組の打診

## H28. 5 広報推進協議会

H28. 5 (国土を測る意義と役割を伝える懇話会第2回)

## H28. 6 広報推進協議会

H28. 6 (「測量の日」関連行事)

## H28. 7 広報推進協議会

- H28. 9 広報推進協議会
- H28. 9 (国土を測る意義と役割を伝える懇話会第3回)
- H28. 10 広報推進協議会
- H28. 11 広報推進協議会
- H28. 11 (国土を測る意義と役割を伝える懇話会第4回)
- H28. 11 (G空間E X P O)
- H28. 12 広報推進協議会
- H29. 1 広報推進協議会
- H29. 2 広報推進協議会 当面の取組方針
- H29. 3 広報推進協議会

## ターゲットと取り得る手段について(整理)

| ターゲット(人口)            | 手段            | 教育  |  |   | リクルート   |   |  |   | マスコミ |
|----------------------|---------------|---|--|---|---|---|--|---|------|
|                      |               | 出版  | 子供地図教室   | 職場体験  | 職場紹介  | デジタルコンテンツ   | 親の説明会  | インターンシップ  |      |
| 小学生                  | 668万人         | ◎   | ○(高学年)   | ◎   | ×   | ×   | ×  | ×   | ×    |
| 中学生                  | 354万人         | △   | △  | ◎   | ×   | ×   | ×  | ×   | △    |
| 高校生                  | 293万人         | ×   | ×  | ◎   | △   | △   | ×  | ×   | ○    |
| 工高、農高、高専             | 39万人          | ×   | ×  | ×   | ◎   | ◎   | ×  | ◎   | ○    |
| 大学生                  | 287万人         | ×   | ×  | ×   | ◎   | ◎   | ×  | ◎   | ◎    |
| 大学院生                 | 26万人          | ×   | ×  | ×   | ◎   | ◎   | ×  | ◎   | ◎    |
| 親(高校～大学)             | 1,000万人       | ×   | ○  | △   | ×   | △   | ○  | ×   | ◎    |
| 一般                   | 12,660万人      | ×   | △  | ×   | ×   | △   | △  | ×   | ◎    |
| 取組事例・示された観点          |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学研に依頼 まんがひみつ文庫の「まんがでよくわかるシリーズ」3,240万円で請け負い、25,000部の冊子は全国の小学校図書館・公共図書館に配付。(宮崎構成員)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線の理解を目的として実施。親子で参加し、行事は盛況。今後、参加した子の意識変化等のフォローアップ調査が必要。(田代構成員)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人学校サポートセンター 修学旅行時に企業、官公庁とマッチングして職場体験を実施。(稲垣構成員)</li> <li>・(公財)日本修学旅行協会も相談先になり得る。(田代構成員)</li> <li>・JTB 修学旅行、校外学習をはじめとする各種学校行事などの提案サービスあり。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業(出前) 大学等を対象にした建設関連業説明会を実施。今後は業団体が自立して実施する方向を模索(水草オブザーバー)</li> <li>・群馬県内の工高、農高で出前講座を実施(愛測協作成のDVDを活用)(群測協)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学生の6～7割はHP、SNS、Facebookで大学を知ったと回答(金沢工大)。(鹿田アドバイザー)</li> <li>・HP、SNS、Facebookなどは不特定多数に瞬時に発信可能だが、忘れられやすい(土田構成員)</li> <li>・企業情報の入手先ランキングは、説明会、web、パンフの順。動画、SNSは意外に低い。(水草オブザーバー)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都内のある大学 大学では親限定の企業説明会も存在する。(水草オブザーバー)</li> <li>・ノウハウが足りない、今後長期的に取り組むべき課題。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・春先に開催すれば、行き先選定の参考になる。(水草オブザーバー)</li> <li>・マスコミが取り上げれば、効果は大きい、間違った情報も伝わるおそれもある。(鹿田アドバイザー)</li> <li>・建設専門紙は地理空間情報について、分かりやすい説明を求める声がある。(岩田構成員)</li> </ul> |      |
| 広報推進協議会が主導する活動としての要件 | 僅少の経費で実施可能    | ×   | ○  | ○   | ○   | △   | ○  | △   | ○    |
|                      | 各団体共通して実施可能   | △   | ×  | ○   | ○   | ○   | ○  | ○   | ○    |
|                      | 全国的どこでも実施可能   | △   | ×  | △   | △   | ○   | ×  | ○   | ○    |
|                      | 目に見える効果が期待できる | △   | ○  | ○   | ○   | ○   | ○  | ○   | △    |

注1 第1回、第2回の広報推進協議会の議論をもとに事務局作成

注2 ターゲット対象の適性については、◎、○、△、×の順で定性的に評価した

注3 広報推進協議会が主導する活動としての要件の適性については、◎、○、△、×の順で定性的に評価した